



地 理 B 問 題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は 15 ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. これは、地理 B の問題である。解答用紙が出願時に選択した科目であるかどうか確認のうえ、解答すること。
3. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
4. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験番号が正しいかどうか受験票と照合し確認すること。
5. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆又はシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入すること。
7. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 文字は一点一画まで正確に書くこと。
10. 解答用紙は持ちかえないこと。
11. この問題用紙は必ず持ちかえること。
12. 試験時間は 60 分である。
13. マークの記入例

良い例	悪い例
	

〔 I 〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

東ヨーロッパの国々では、西ヨーロッパ諸国と同様に、インド＝ヨーロッパ語族に属する言語を公用語とし、キリスト教が主流である。こうした文化的共通性を有しながらも、東ヨーロッパ諸国の多くは、冷戦の時代にはソ連を中心とした社会主義陣営に組み込まれ、経済面では経済相互援助会議(COMECON)、軍事面ではワルシャワ条約機構に属していた。

これらの国々では、1989年の東欧革命により民主化が進み、市場経済への移行が果たされた。2004年には 、、チェコなどが、2007年には とブルガリアが、2013年にはクロアチアがEUに加盟した。

では、スラブ語派の公用語が用いられ、カトリックを信じる人々が多い。南部には東ヨーロッパ最大の炭田があり、社会主義時代には鉄鋼業を始めとした重化学工業が発展したが、大気汚染などの環境問題も生じた。

は、インド＝ヨーロッパ語族に含まれない言語を公用語とする。国民の多くはカトリックである。国土の中央部には国際河川ドナウ川が流れ、その流域の大平原では、小麦やとうもろこしの栽培が盛んである。社会主義時代にはCOMECON 分業体制の下でバスを中心とした車輛生産が行われていたが、民主化後に日系の自動車企業が進出し乗用車の生産が進んだ。

では、ラテン語派の言語を公用語とし、正教会に属する人々が多い。国土の中央部を 山脈が縦断する。原油や天然ガスが産出され、社会主義時代には石油化学工業が発展した。小麦やとうもろこしの他、温暖な気候を活かしたぶどうの栽培や、ひまわりやたばこなどの商品作物の栽培も盛んである。

問 1 に当てはまる国を図 I - 1 の A ~ K のなかから 1 つ選び、解答欄にマークしなさい。

問 2 に当てはまる国を図 I - 1 の A ~ K のなかから 1 つ選び、解答欄にマークしなさい。

問 8 下線部エに関し、インド＝ヨーロッパ語族に含まれない言語を公用語として用いている国を以下の選択肢から1つ選び、解答欄にマークしなさい。

- | | |
|----------|---------|
| A フィンランド | B ポルトガル |
| C ドイツ | D ノルウェー |

問 9 下線部オに関し、ドナウ川が最終的に流れ込む海を以下の選択肢から1つ選び、解答欄にマークしなさい。

- | | | | |
|------|--------|--------|---------|
| A 黒海 | B カスピ海 | C アラル海 | D アドリア海 |
|------|--------|--------|---------|

問10 下線部カに関し、この大平原の名称を以下の選択肢から1つ選び、解答欄にマークしなさい。

- | | | | |
|-------|-------|-------|---------|
| A プスタ | B パンパ | C カンボ | D プレーリー |
|-------|-------|-------|---------|

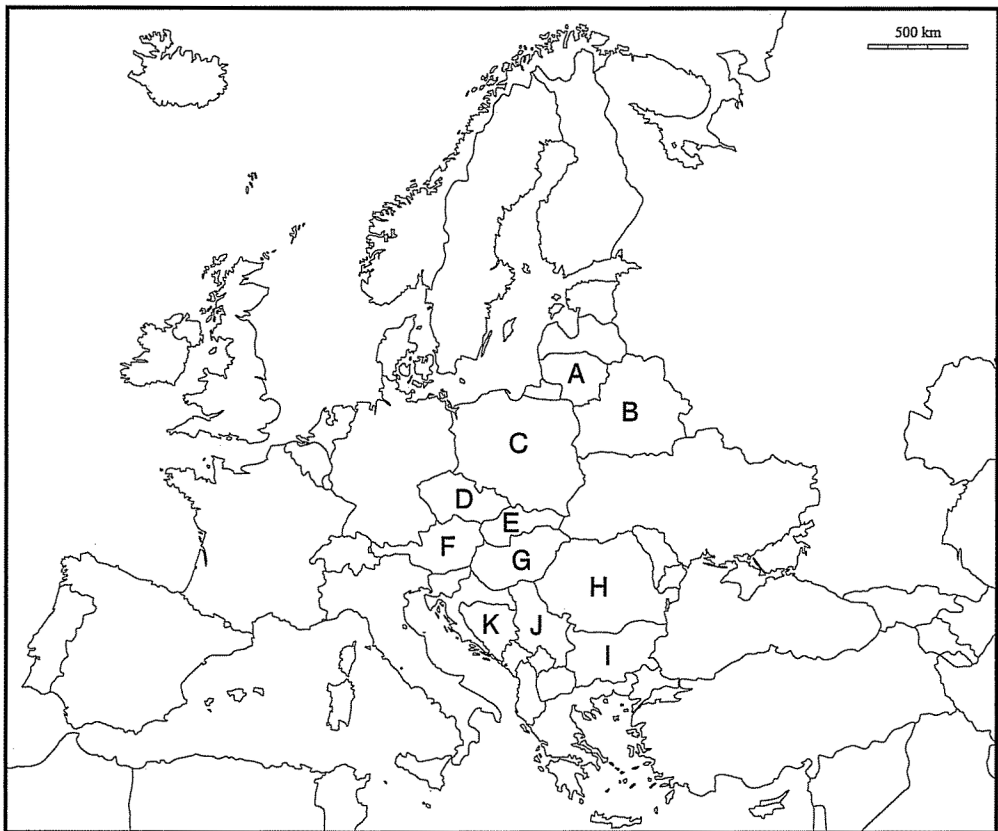


図 I - 1

地理B 問題は次ページに続いています。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

問 1 人々は、様々な目的で国境を越えて移動するが、その中で観光による国際間の人々の移動には、国や地域などによりそのパターンに違いがみられる。表Ⅱ－1は、5つのヨーロッパ諸国(ドイツ、フランス、イギリス、イタリア、スペイン)について、観光客の相互の移動人数を示したものである。このうち、表中の(ア)の国名を、以下の選択肢から1つ選んでマークせよ。

A ドイツ B フランス C イギリス D イタリア

表Ⅱ－1 (2014年, 万人)

		受 入 国				
		(ア)	スペイン	(イ)	(ウ)	(エ)
出 発 国	(ア)	—	1,062	536	162	393
	スペイン	532	—	192	92	170
	(イ)	781	370	—	164	167
	(ウ)	1,303	1,042	945	—	316
	(エ)	542	1,501	377	242	—

出所：帝国書院編集部編『地理データファイル 2018年版』により作成。

問 2 環境問題に対する関心の高まりと共に、自然環境や文化・歴史などを体験しながら学んでいくことを主眼においた観光も増えてきている。そのような観光のことを何と呼んでいるか、以下の選択肢から1つ選んでマークせよ。

A アーバンツーリズム B マスツーリズム
C エコツーリズム D メディカルツーリズム

問 3 上記問2の観光で有名なラテンアメリカの国は、常備軍を保持していない国としても知られている。その国はどこか。以下の選択肢から1つ選んでマークせよ。

A メキシコ B エクアドル C コスタリカ D コロンビア

問 4 世界遺産への登録は、観光客を増やすことを目的としたものではないが、登録により観光客が増加することも事実である。日本の世界遺産登録件数は 21 件であるが、そのうち自然遺産は 4 件と少なく、残りは文化遺産である (2017 年 7 月現在)。しかしその登録物件名の中には、「山」という文字が含まれるものが少なくない。以下のうち、自然遺産に該当するものを選択肢から 1 つ選んでマークせよ。

A 紀伊山地 B 白神山地 C 石見銀山 D 富士山

問 5 上記問 4 に示した世界遺産の登録は、どの国際機関によって行われているだろうか。その国際機関の略称を、アルファベットで解答欄に記入せよ。

問 6 人々が国境を越える場合、パスポートや身分証の提示が求められることが一般的である。しかし、ヨーロッパの多くの国では、ある協定によりそれらの提示なしで人々は国境を越えて移動できることになっている。その協定の名称を、解答欄に記入せよ。

問 7 観光には様々なタイプがあるが、都市部の住民が農山漁村に滞在し、その自然や文化、あるいはそこの人々との触れ合いを楽しむタイプのものがある。イギリスのルーラルツーリズムとほぼ同義と理解されるが、日本ではそれを何と呼んでいるだろうか。その名称を解答欄に記入せよ。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

東南アジアは、インドシナ半島やマレー半島などの大陸部と、フィリピンやインドネシアなどの島嶼部からなるが、ほぼ全域が に属している。大陸部では、いくつかの⁽²⁾山脈が存在するとともに、⁽³⁾河川が流れ、河口には平野が形成されている。東南アジアの⁽⁴⁾気候は、大部分が熱帯に属しており、稲作なども盛んに行われている。また、太平洋とインド洋を結ぶ海上交易上の⁽⁵⁾要衝にあたり、中国やインド出身の商人とともに⁽⁶⁾多様な宗教と言語が持ち込まれ、重層的な文化が形成されてきた。

16世紀以降には、ヨーロッパ諸国が東南アジアに進出し、タイを除くほとんどの地域が植民地化された。植民地とされた東南アジア諸国は、第二次大戦後には次々と独立したが、冷戦構造の下で政治的な混乱が生じ、経済的な停滞を余儀なくされた国も多い。近年では、社会主義を採用していた諸国も経済の自由化を図り、次第に成長を遂げている。また、⁽⁷⁾東南アジア諸国連合が誕生し、⁽⁸⁾外資導入などを通じて⁽⁹⁾急激な経済成長を遂げた国も多く、⁽¹⁰⁾産業構造も農業中心から工業・サービス業中心へと変化を遂げつつある。

問1 空欄 に当てはまる最も適切な名称を以下の選択肢から1つ選び、解答欄にマークしなさい。

- A 古期造山帯 B 新期造山帯 C 楯状地 D 卓状地

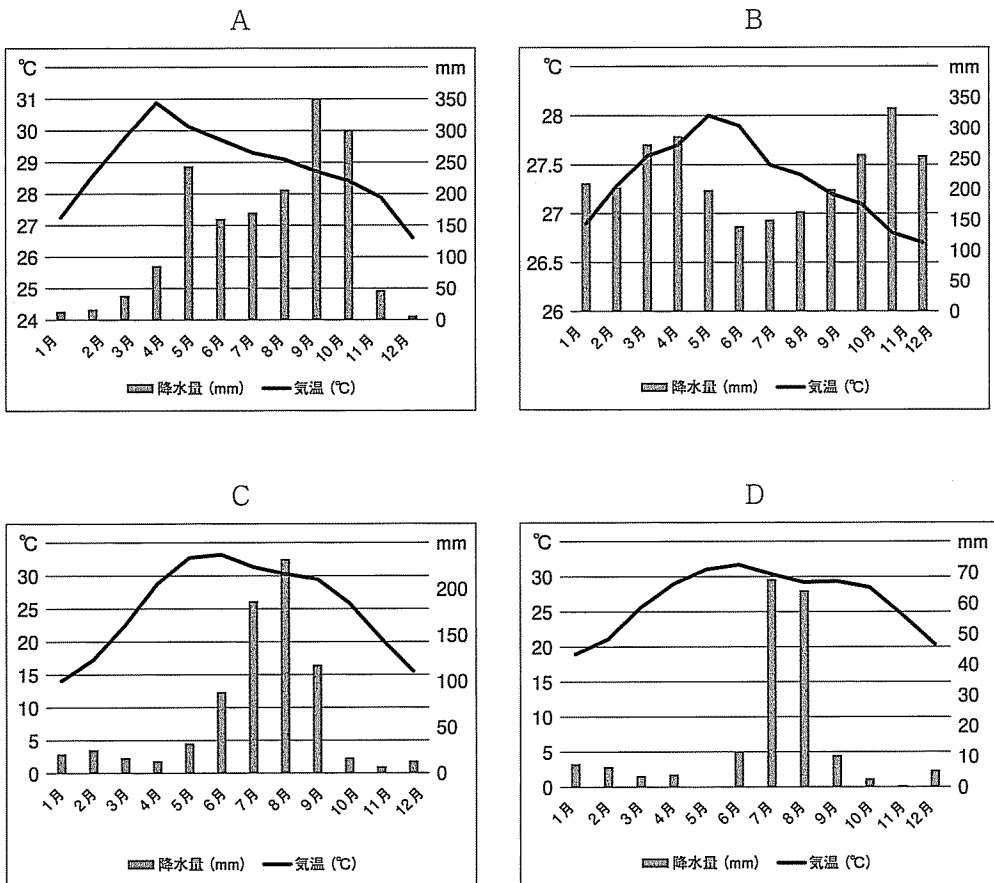
問2 下線部(2)に関して、ベトナムとラオスの国境部にある山脈は何か。最も適切なものを以下の選択肢から1つ選び、解答欄にマークしなさい。

- A バリサン山脈 B アラカン山脈
C パトカイ山脈 D アンナン山脈

問 3 下線部(3)に関して、ミャンマー中央部を流れる河川は何か。最も適切なものを以下の選択肢から1つ選び、解答欄にマークしなさい。

- A メグナ川
- B エーヤワディー川
- C チャオプラヤ川
- D ホン川

問 4 下線部(4)に関して、図Ⅲ-1は、カラチ、ニューデリー、バンコク、クアラルンプールの雨温図である。バンコクに関する雨温図はどれか。最も適切なものを以下の選択肢から1つ選び、解答欄にマークしなさい。



図Ⅲ-1
出所：気象庁

問 5 下線部(5)に関して、現在のタイに位置し、14世紀半ばから18世紀半ばまで続いた王朝の主な交易拠点となった都市はどこか。最も適切な都市名を以下の選択肢から1つ選び、解答欄にマークしなさい。

- A スコータイ B チェンマイ C アンコール D アユタヤ

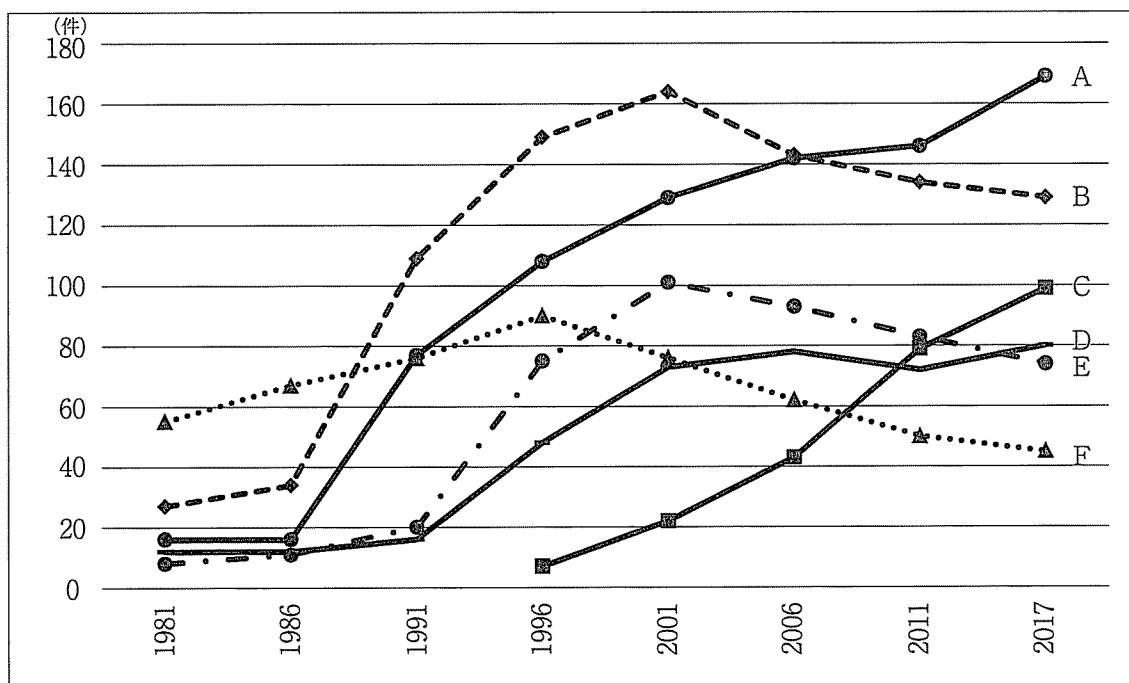
問 6 下線部(6)に関して、シンガポール国籍の人々の間で最も信仰されている宗教は何か。最も適切なものを以下の選択肢から1つ選び、解答欄にマークしなさい。

- A 仏教 B キリスト教
C イスラム教 D ヒンドゥー教

問 7 下線部(7)に関して、2015年に東南アジア諸国連合の各国首脳によって署名された経済共同体の略語は何か。最も適切なものを以下の選択肢から1つ選び、解答欄にマークしなさい。

- A ASEAN B ASA C ASC D AEC

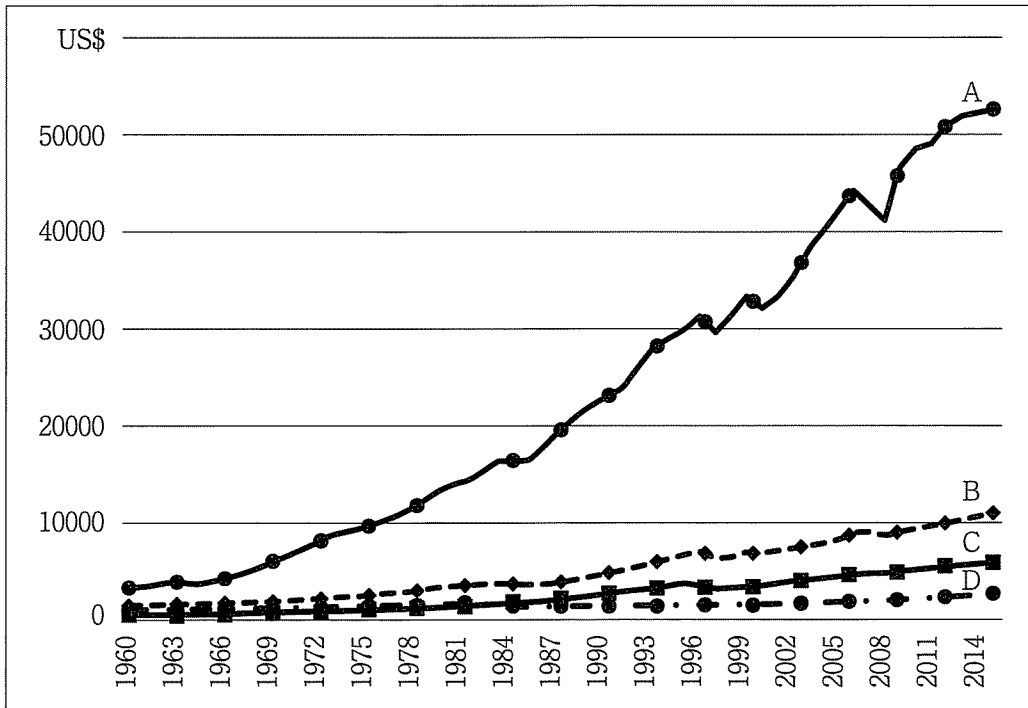
問 8 下線部(8)に関して、図Ⅲ-2は、東南アジア諸国(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)に進出した、電気機器(製造業)に関する日本企業の現地法人数の推移である。タイを示す曲線はどれか。最も適切なものを以下のA~Fから1つ選び、解答欄にマークしなさい。



図Ⅲ-2

出所：東洋経済新報社『海外進出企業総覧』各年版

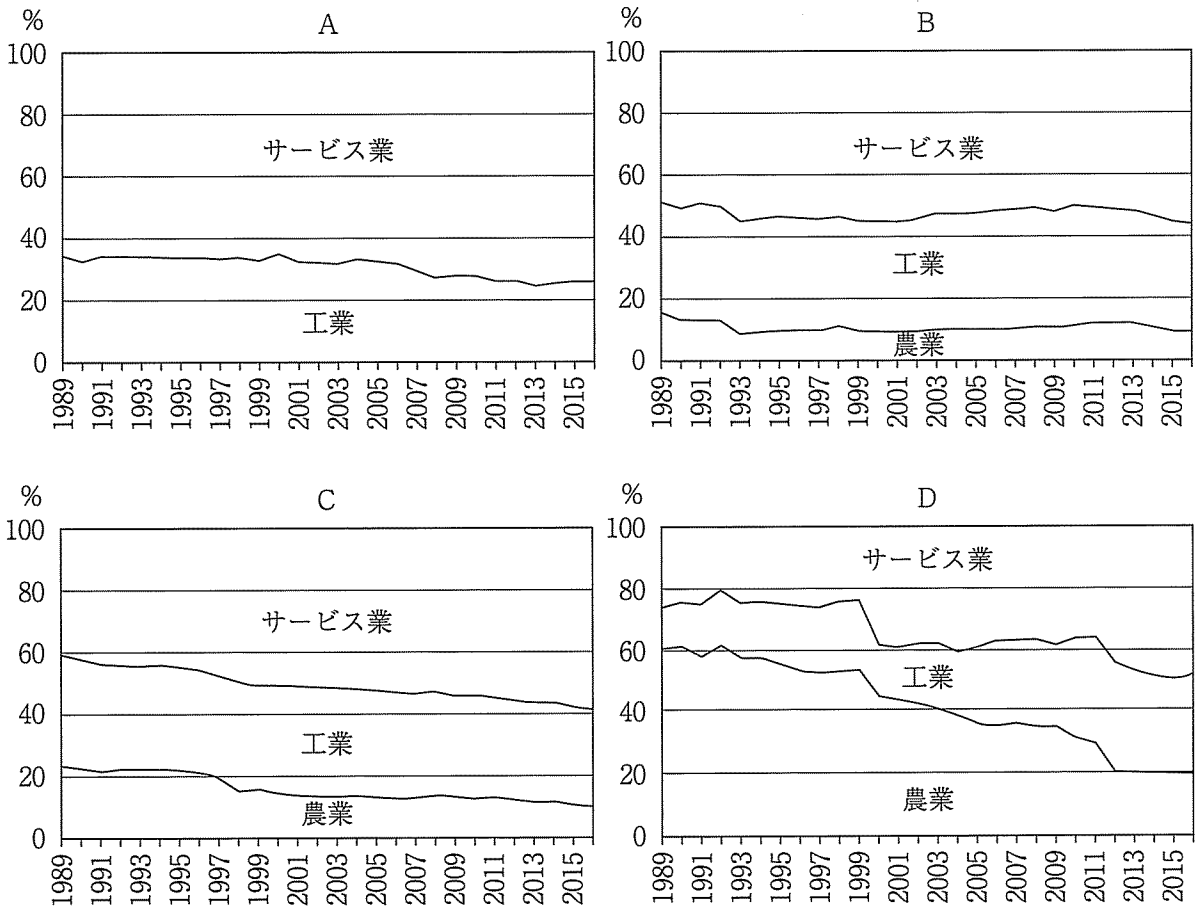
問 9 下線部(9)に関して，図Ⅲ－3は，マレーシア，フィリピン，シンガポール，タイの1人あたり実質 GDP(US\$)の推移である。マレーシアを示す曲線はどれか。最も適切なものを以下のA～Dから1つ選び，解答欄にマークしなさい。



図Ⅲ－3

出所：世界銀行 World Development Indicators(2018年7月1日参照)

問10 下線部(10)に関して、図Ⅲ－4は、ラオス、フィリピン、シンガポール、タイにおける産業構造の推移(GDPに占める付加価値の割合)である。フィリピンを表すグラフはどれか。最も適切なものを以下のA～Dから1つ選び、解答欄にマークしなさい。



図Ⅲ－4

出所：世界銀行 World Development Indicators(2018年7月1日参照)

〔Ⅳ〕 次の表Ⅳ－１は、三大都市圏と地方圏の間の人口移動の推移を示したものである。この表に関する以下の文章を読み、設問に答えよ。

表Ⅳ－１ 三大都市圏と地方圏の間の人口移動：1955～2014年

年次	東京圏	名古屋圏	大阪圏	地方圏 合計	年次	東京圏	名古屋圏	大阪圏	地方圏 合計
1955	233,790	22,919	87,738	-344,447	1985	93,337	11,434	5,872	-110,643
1956	246,299	41,490	106,246	-394,035	1986	123,468	16,379	18,329	-158,176
1957	293,933	43,903	161,833	-499,669	1987	127,215	15,012	15,958	-158,185
1958	272,154	25,985	116,981	-415,120	1988	97,254	11,092	6,403	-114,749
1959	300,183	44,161	140,819	-485,163	1989	88,105	13,261	3,128	-104,494
1960	332,400	71,310	184,602	-588,312	1990	65,840	12,846	-6,057	-72,629
1961	358,316	74,312	218,487	-651,115	1991	49,613	10,534	-1,031	-59,116
1962	363,595	72,043	211,442	-647,080	1992	23,636	6,016	-5,163	-24,489
1963	353,820	81,096	189,010	-623,926	1993	-12,690	3,077	-10,530	20,143
1964	326,376	75,907	177,619	-579,902	1994	-27,142	151	-12,963	39,954
1965	296,912	52,153	137,000	-486,065	1995	-18,256	228	-23,071	41,099
1966	265,070	37,391	112,388	-414,849	1996	4,284	631	-3,286	-1,629
1967	254,171	41,833	117,294	-413,298	1997	21,124	3,531	-3,009	-21,646
1968	257,946	47,810	123,604	-429,360	1998	41,647	5,353	-1,054	-45,946
1969	249,112	54,980	137,041	-441,133	1999	44,244	3,800	-2,901	-45,143
1970	247,054	53,487	109,409	-409,950	2000	56,046	2,884	-4,728	-54,202
1971	204,354	36,373	66,299	-307,026	2001	79,597	5,418	3,601	-88,616
1972	158,163	23,539	45,464	-227,166	2002	82,749	6,171	1,327	-90,247
1973	96,307	21,822	17,757	-135,886	2003	76,767	7,844	3,118	-87,729
1974	52,024	6,392	-6,630	-51,786	2004	73,161	11,030	4,088	-88,279
1975	43,983	-3,959	-18,886	-21,138	2005	87,233	17,103	10,342	-114,678
1976	25,095	-7,071	-28,191	10,167	2006	101,193	21,113	13,874	-136,180
1977	34,895	-500	-25,248	-9,147	2007	120,217	22,049	14,792	-157,058
1978	43,552	171	-17,277	-26,446	2008	117,586	19,348	17,144	-154,078
1979	28,606	-2,744	-19,860	-6,002	2009	86,598	5,853	11,918	-104,369
1980	29,891	-613	-15,040	-14,238	2010	65,061	3,765	7,311	-76,137
1981	52,073	1,256	-7,798	-45,531	2011	51,036	7,758	11,284	-70,078
1982	63,949	3,250	-913	-66,286	2012	51,408	7,147	11,198	-69,753
1983	81,954	4,136	6,287	-92,377	2013	70,354	8,054	11,378	-89,786
1984	84,912	5,559	8,640	-99,111	2014	78,076	7,971	10,836	-96,883

注：東京圏：埼玉，千葉，東京，神奈川。名古屋圏：岐阜，愛知，三重。大阪圏：京都，大阪，兵庫，奈良。プラスの数値は転入超過数を，マイナスの数値は転出超過を示す。

出所：国立社会保障・人口問題研究所『人口統計資料集』により作成。

表Ⅳ－1に示したように、三大都市圏と地方圏に分けて、過去60年間あまりの国内人口移動の推移をたどると、大きく五つの時期に区分することができる。

1950年代後半～**ア**の高度経済成長期には、工業地帯が連なる太平洋**1**の発達に伴い、地方圏からの大量の人口移動により三大都市圏が形成された。

2ショック後の**イ**は、景気低迷で地方圏からの人口流出が減少する一方で、故郷に戻る**3**現象が指摘されて「地方の**4**」といわれた。

ウは、東京への人口集中が顕著となる時期であり、**5**経済期には東京圏が圧倒的に地方圏から人口を集めるようになった。

5経済が崩壊した**エ**には、**3**だけでなく、故郷近くの中心的都市まで戻る**6**や大都市から地方へと移住する**7**など、多様な人口移動が見られるようになった。

しかし、**オ**になると、再び東京圏への集中が問題視されて、**8**といわれるようになった。その結果、地方圏では、農山漁村だけでなく、中小規模の都市でも人口減少と中心的市街地の衰退によりコミュニティの維持が困難な状況が生まれつつあり、いわゆる「地方**9**」が懸念されている。一方、東京圏では、今後高齢化が急速に進展し、とくに75歳以上の高齢者人口は2015年から2030年にかけて1.5倍以上に急増すると予測されることから、⁽¹⁾医療・介護施設が大幅に不足することが懸念される。こうしたなか政府は2014年に「まち・ひと・しごと**10**総合戦略」をとりまとめて、長期的な対策に乗り出している。

問 1 空欄 ～ にあてはまる年代として、最も適切なものを次の選択肢から選び、その記号をマークせよ。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| A 1940年代後半 | B 1950年代前半 | C 1950年代後半 |
| D 1960年代前半 | E 1960年代後半 | F 1970年代前半 |
| G 1970年代後半 | H 1980年代前半 | I 1980年代後半 |
| J 1990年代前半 | K 1990年代後半 | L 2000年代前半 |
| M 2000年代後半 | N 2010年代前半 | O 2010年代後半 |

問 2 空欄 から にあてはまる最も適切なものを次の選択肢から選び、その記号をマークせよ。

- | | | |
|----------|--------|----------|
| A Iターン | B Jターン | C 第2次オイル |
| D Uターン | E リーマン | F ブロック |
| G 第1次オイル | H ベルト | I バブル |
| J 過疎化 | K 創生 | L 消滅 |
| M 一極集中 | N 時代 | O 成長 |

問 3 下線部(1)の事態が生じる理由を、50字以内で解答欄に記入せよ。

